

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 金沢市立三馬小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒 921-8164
金沢市久安 6 丁目 154 番地

E-mail : minma-e@kanazawa-city.ed.jp

Website : http://cms.kanazawa-city.ed.jp/minma-e/

児童生徒数：男子 386 名 女子 347 名 合計 733 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

①3年 「地域の人と交流して学ぼう」

学校の伝統である「三馬っ子音頭」を4年生から受け継ぎ、運動会や地域の夏祭り、ロシアの児童との交流、文化祭、お年寄りの施設訪問、朝日小との交流会等、多くの場で踊ってきた。また、校区にある施設のお年寄りの方との交流では、どんな内容の活動が喜んでもらえるか、どんな説明をすれば分かってもらえるかを考え、一緒に折り紙やすごろく、かるたをしたり、歌を披露したりして交流することができた。さらに、校区のお年寄りの方から、けん玉やこま、あやとり、お手玉の昔遊びのコツを教わり、この遊びがずっと続くために上手になって教えたいという思いを持つことができた。

「和菓子、茶道を学ぶ」では、校区にある和菓子屋さんを迎え、職人さんの巧みな技や工夫に感動し、和菓子のおいしさ、美しさを味わった。

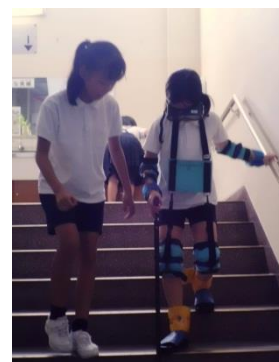
これらの学習を通して、児童は自分の暮らす三馬校区について目を向けることができるようになり、さらに地域への関心を高めることができた。また、お年寄りとの接し方を通して相手の立場に立って考えることの大切さや伝統文化を通して、伝統を受け継いでいくことの大切さを実感することができた。

②4年 「みんなが住みやすい町」

町には、いろいろな人が住んでいるので、赤ちゃんからお年寄りまで、障害のあるなしに関わらず全ての人にとって、＜三馬校区が住みよい町か＞調べた。

聴覚障害の方と手話で話したり、視覚障害の方から、便利な道具や教科書について教えていただいたりすることを通して、どちらも、相手のことを考えながら気持ちを伝えることの大切さを学んだ。疑似体験では、ブラインドウオークや車いす、高齢者体験などを行い、目が見えない恐怖や毎日の生活で苦労することを肌で感じた。また、介助してくれる人の必要性や安全・適切に介助する難しさも知った。

この学習で学んだことから、自分達にできることやより住みよい町にするための案を考え、互いに交流し合った。



③5年 「考えよう 三馬の環境を」

三馬小学校の近くを流れる伏見川の河川敷は、春になると桜の花が見事に咲き、地域の人にも親しまれている。そこで、4月に伏見川へ出かけ、観桜を楽しむとともに、伏見川の様子を観察した。子どもたちは、伏見川に訪れる水鳥や元気に泳ぐ魚、川辺の草花などの自然に興味をもったり、河川敷や川岸のゴミの様子を見て驚いたりしていた。気づいたことを交流する中で、子どもたちから、「川に生息する生き物について調べたい」「ゴミについて調べたい」などの思いが出てきた。



そこで、伏見川の観察を継続し、外部から講師を招いて、川の指標水生生物による水質検査とパックテストを行った。水質検査の結果、伏見川の水は「少し汚れている」水であるということが分かった。伏見川の水が汚れていることについて残念だと感じながらも、自分たちが思っていた以上にたくさんの水生生物が生息していることを知り、今後も伏見川にたくさんの生物がすむことができる環境を守っていきたいという思いをもった。

そして、昨年度までの5年生の活動を見てきた経験を活かして、自分たちもサケの卵を育てて伏見川のサケを増やす役割を担いたいという思いを強くもつようになった。そこで、サケの発眼卵をもらい、育て方の指導を受けながら、稚魚を育ててきた。3月には、地域の方とともに育てた稚魚を放流する。伏見川にかかわる活動を通して、子ども達は身近な伏見川をもっときれいにしたい、それを担っていくのが自分たちであるという意識をもつことができたようである。

④6年 「共に生きる 未来に生きる」

「共に生きる」では、1年生との花見遠足やプール、なわとびなどの活動 や、お年寄りとの音楽会を行い、いずれも相手のことを考えて話しかけたり、工夫して教えたり、優

しさのある行動ができた。

「未来に生きる」では、働く意味ややりたい仕事の内容を調べ、自分の憧れの職業人に手紙を書き、来校や質問紙の回答をお願いした。そのうち、弁護士やパティシエ、デザイナーなど20名の方が来校して下さり、また、多くの方から質問紙への回答をいただいた。その後、多忙な職業人の方がなぜ来校して下さったり、返事を下さったりしたのか考えさせた。子ども達は「ぼく達が期待されているから」「私達に夢を持ってがんばってほしいから」と答え、自分達たちが次の社会の担い手であることを意識させることができた。



職業について学習することで、自分の将来の夢を明確にし、夢に向かって毎日の学習や生活に取り組んだり、今の自分に必要なことは何かを見直したりすることができた。また、仕事をする上で「あきらめないこと」「相手を大切に思うこと」などの大切なことや働く人への感謝の気持ち、生きるすばらしさも感じていた。

職業についてパワーポイントにまとめ友達に発表するとともに、他校との交流として戸板小学校にまとめた内容を送り、交流する予定である。

⑤全学年での取組

本校では、全学年で食教育に取り組んでおり、加賀野菜や金沢近海の水産物の生産者を招き、金沢伝統の食文化にふれる学習も行っている。これらの学習を通して、金沢を大切に、伝統を守ることのすばらしさや出会った方の生き方や仕事に向かう姿勢、人との関わり方などを学んでいた。

また、児童会活動で、30年以上続く「オレンジ作戦」（奉仕の精神）では、今年もつながりを大切にし、大震災の出来事を忘れないためにも気仙沼市立鹿折小学校へ応援メッセージを送った。鹿折小学校から、ビデオレターが届き、オレンジ集会で視聴しつながりを確認した。また、今年もブルキナファソへ、文具などの支援を行った。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）